

第1回 丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2022年10月26日（水）

19:30～21:30

場所：氷上住民センター 大会議室

【出席者委員】

上羽 裕樹、岸本 好量、竹内 真子、森島 斉、細見 博美、植木 光敏、大野 亮祐、
足立 はるみ、柳瀬 長明、實吉 直、杉岡 秀紀、山口 洋子、池畑 美帆 （13名）

【欠席者委員】

瀬尾 せつ子、寺内 清

【事務局】

市長、副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、福垣政策係長、足立主事

配布資料：【資料1】 丹波市総合計画審議会条例

【資料2】 丹波市総合計画審議会委員（名簿）

【資料3】 諮問書

【資料4】 丹波市総合計画審議会に関する運営要領

【資料5】 丹波市総合計画審議会に関する傍聴規定

【資料6】 丹波市総合計画について

【資料7】 第3次丹波市総合計画策定方針

【資料8】 第3次丹波市総合計画策定スケジュール

【資料9-1】 小・中学生アンケート（案）

【資料9-2】 高校生アンケート（案）

【資料9-3】 市民アンケート（案）

第2次丹波市総合計画（後期基本計画—概要版）

1. 開会

2. 委嘱書の交付【資料2】

3. 市長あいさつ

丹波市では「人と人、人と自然の創造的交流都市～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～」を将来像として、平成27年から10年計画の総合計画を進めて現在8年目となる。この間、全国では想定以上のスピードで少子高齢化が進み、丹波市も例外なく右肩下がり的人口減少となっている。また新型コロナウイルス感染症により生活様式も一転し、さらに予測が付きにくい状況となっている。デジタル技術の進歩により生活も進化している。第3次総合計画はSDGsや社会情勢を踏まえて策定することになる。

これから2年間にわたって委員の皆様に審議をお願いしたい。

今回の計画策定は、市民と作り上げることを策定方針の一つとしている。その方法の一つとして、住民参画にデジタル技術を積極的に活用していきたい。丹波市の将来像に向けて、実効性と独自性のある計画づくりを進めていきたい。

4. 委員自己紹介【資料2】

5. 正副会長選出

会長：杉岡秀紀氏、副会長：山口洋子氏

6. 諮問について【資料3】

7. 報告事項

(1) 丹波市総合計画審議会に関する運営要領、丹波市総合計画審議会に関する傍聴規定
【資料4・5】

・・・事務局説明

【会長】 会議は基本的に公開、誰でも傍聴できるものとする。

8. 協議事項

(1) 第3次丹波市総合計画の策定について

①丹波市総合計画について【資料6】

総合計画とは何か～

・・・会長説明

②第3次丹波市総合計画策定方針とスケジュールについて【資料7, 8】

・・・事務局説明

【委員】 資料8のスケジュールに市民参画にかかるワークショップなども予定されており、前回よりも参画しやすい策定になっていると思う。市民参画は間接参加ではなく、直接参画できる仕組みがあればと考える。1次、2次、3次と区切って策定するのではなく、1次、2次からの積み重ねで策定していくものと考えている。第3次では、丹波市のまちづくりビジョンも踏まえる必要があるのではないかと。人口減少のスピードも早まっているので、人口ビジョンの見直しの期間も早めて、現状を踏まえながら計画策定を進めるべき。

【会長】 朝来市は市民が直接参加しながら計画づくりをしている。計画は作った後も大事で、計画の評価を踏まえた上で、次期計画を策定する必要がある。2次計画がどこまで進んでいるかの評価についても我々も関わっていかなければならない。

まちづくりビジョンは踏まえていく必要があると考えるので、次回の審議会で提供いただきたい。また事務局主体ではなく、委員主体での計画づくりを進めていければと思う。審議会の報告書だけから判断して発言するのではなく、市民の集まりなどに足を運んで生の声を拾い上げていただきたい。

【事務局】 1点目の直接的な参画では、ワークショップを計画している。まちづくりビジョンの策定時においても市民説明会で意見を直接聞いているので同様の機会を設けたいと考えている。2点目の検証評価については、来年度に検討を行ったうえで第3次の総合計画に繋げていきたい。3点目、まちづくりビジョンについては、次回会議に冊子をご提供する。

【委員】 H24に自治基本条例が出来て10年経った。住民自治の考え方は浸透してきたと考えている。これからもっと住民が核となる計画策定ができるのではないかと。市民主体、行

政支援型の計画づくりの実現が必要。施策体系も市民が主役のものにした方がよいのではないかと、重要なものに絞って、掲載するほうがよいと考える。行政内の判断基準、意思決定プロセス等の意識の変革によって若手職員の意識も変わってくると思う。

【会 長】 市民主体、行政伴走型はとても大事な考え方である。難しいところではあるが、何から始めるかを明確にする必要があると思う。最初の柱は何にするのかというのは大事である。総合計画は行政計画ではなくまちづくり計画なので、市民が自分たちの計画だと認識することが大切で、役所全体が関わる計画づくりとすれば、変わってくると思っている。

【事務局】 職員も計画策定に携わっていくものと考えている。スケジュールにも示しているとおりに、若手職員のワーキングも計画しているところである。そういった部分で市民の方と計画づくりを進めていける体制づくりとしたい。

【委 員】 資料8のスケジュールに「基本理念、将来都市像」の決定とあるが、令和7年を初年度とした計画の将来像を決める時期としては、標準的であるのか。また、審議会のスケジュールを大まかに教示いただきたい。これからの市民の役割は協働ではなく、共創していく必要があると考えている。

【会 長】 令和4年度末には、将来像の大枠は作成して、計画策定を進めていきながら、微調整していければと考えている。

【事務局】 特に子どもたちへのアンケート結果から将来像のベースを形づくっていければと考えている。子ども達の意見を反映させた計画づくりを考えている。審議会のスケジュールについては、スケジュール表項目の「外部検討委員会」にあたるところで、2カ月1回程度の開催を予定している。

【会 長】 基本理念や将来像は、完成間際になって、かっちりハマることがある。アンケートやワークショップで見えてきたもので作り上げていくことで良いと思う。

(2) 第3次丹波市総合計画策定にかかるアンケート内容について

【資料9-1、9-2、9-3】・・・事務局説明

【会 長】 アンケートの回収数については、舞鶴市の大浦地区では回収率90%以上の例もある。丹波市も可能な限り回収数を伸ばしていきたい。

【委 員】 高校生アンケートのアイデア記入の欄を大きくした方がよいのではないかと。

【事務局】 WEBによる実施を予定しているため、記入文字数には定めない。

【会 長】 小・中学生アンケートもアイデア記入の欄を設けてはどうか。

【事務局】 問9として追加することで対応する。高校生はアイデア欄を問12とする。

【委 員】 農業に関しての文言等が少ないと感じた。農家からすると10年後途絶えてしまうのではないかと危機感を覚え、耕作放棄地が益々増えていくと考えている。アンケートでその農業や農業地についての問題をどのように考えているか聞いてはどうか。農地をどのように守っていくかなどの考えを聞きたい。

【会 長】 アンケートで聞くよりもワークショップで聞いた方が、有意義な意見が聞けると思う。ワークショップの一本の柱とする案もある。

【事務局】 直接的な設問はないが、市民の問16の選択肢に農業関連の選択肢はある。ワークショップの中でもご意見聞ければと思う。

- 【会 長】 市民の9ページの間18のキーワードに入れてはどうか。
- 【事務局】 高校生問11、市民の間18にも農林業について追加を検討します。市民アンケートのアイデア記入欄は問19としたい。
- 【委 員】 丹波市のGDPの4割は製造業が占めている。製造業を入れてはどうか。また性別には「答えたくない」を入れてはどうか。小・中学生の2ページ問6については、少し表現を見直す必要がるのではないか。
- 【会 長】 1点目、製造業をキーワードに入れることは検討いただきたい。2点目、ジェンダー関連は「答えたくない」を入れるべきである。3点目、小学生は「子育て環境が充実している」など文言の見直しや説明を追加するなどの配慮が必要と考える。事務局と点検する。
- 【事務局】 追加するキーワードとして「製造業」とするのか、農業と合わせて「働く場」とするのかは事務局に一任いただきたい。性別については、「答えたくない」を入れていきたい。小・中学生アンケートについて、文言等を見直したい。
- 【会 長】 本日の委員からの意見を反映させたアンケートを、会長、副会長で確認した後、アンケート調査を実施したい。

9. その他 感想

- 【委 員】 総合計画を勉強しながら関わっていければと思っている。
- 【委 員】 丹波市の地形を考えると農林業の活用を勉強して関わっていきたい。
- 【委 員】 総合計画の策定について勉強になった。製造業の会社が多い中で、市民の労働力は近隣だけでは難しいので、外国籍の方も市民として働いている。外国籍の方が働きやすい環境を整えていく必要があると考える。
- 【委 員】 これまでの子育てやPTA、信用組合などの経験を活かして、総合計画の策定に関わっていきたい。
- 【委 員】 先日、観光協会タブレットを使用して調査を実施した際に「その他」に記入欄を設けると多数の意見が出てくるので、後処理を考えると、できるだけ「その他」を設けないのが良いと思う。それから、これまでも計画策定に関わってきたが、着地点から逆算していく（バックキャストिंग）視点などこれまでと違う手法になっていると思う。
- 【委 員】 一度市から出た立場から、一度市外に出た子どもたちが丹波に戻ってきたいまちづくり、計画づくりにしたい。

(1) 第2回丹波市総合計画審議会の開催について

日時：令和5年1月20日（金）13:30から

場所：氷上住民センター 大会議室

10. 閉会

- 【副会長】 委員の皆様のバックにはたくさんの市民がいらっしゃるの、その方達のためにも、ここにいる委員がこんな計画だったらワクワクするといった計画づくりを進めていければと思う。

以上